

協同の発見

第 299 号

2017.10

きょうどうのはっけん



「ワーカーズコープ論」寄附講座運動

- ◎相良 孝雄 ワーカーズコープ寄附講座の意義－全国に広がる寄附講座の現状と今後の戦略－
- ◎村上了太 沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」2年目の挑戦
- ◎親川 友里 「沖縄の文化・財産から、若者が仕事をおこすこと～がちゆんの取り組み」
- ◎比嘉 盛人 「社会連帯でつなぐ、未来の沖縄づくりのために」
- ◎城間 愛子 「医療福祉の現状と今後の課題～沖縄医療生協活動を通して～」
- ◎高橋 弘幸 久留米大学経済学部「協同組合概論」の取り組み
- ◎相良 孝雄 「ワーカーズコープ論」沖縄4大学共同記者会見 報告
- ◎下村 幸仁 大学生がワーカーズコープを学ぶ理由

■海外レポート

田中 夏子 資料から読むイタリアの社会的経済 (17) コミュニティ協同組合の今日①

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(15回目)

鹿子島 孝次 これまでの出来事と若手リーダーとして

■巻頭言

藤田 徹 寄附講座「ワーカーズコープ論」から学生ワーカーズの設立運動へ



協同の発見

第299号 2017.10

特集 「ワーカーズコープ論」寄附講座運動

目次

巻頭言

- 寄附講座「ワーカーズコープ論」から学生ワーカーズの設立運動へ 2
藤田 徹（センター事業団副理事長/センター事業団人材戦略部長）

特集

「ワーカーズコープ論」寄附講座運動

- ワーカーズコープ論寄附講座の意義
— 全国に広がる寄附講座の現状と今後の戦略 — 4
相良 孝雄（協同総合研究所 事務局長）
- 沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」2年目の挑戦 26
村上 了太（沖縄国際大学教授/協同総研理事）
- 「沖縄の文化・財産から、若者が仕事をおこすこと
～がちゆんの取り組み」 30
親川 友里（実現型ディスカッション企業株式会社がちゆん 取締役）
- 「社会連帯でつなぐ、未来の沖縄づくりのために」 40
比嘉 盛人（株式会社沖縄物産企業連合 卸営業部 県内営業課 課長）
- 「医療福祉の現状と今後の課題～沖縄医療生協活動を通して～」 49
城間 愛子（沖縄医療生協まちづくり推進部 部長）
- 久留米大学経済学部「協同組合概論」の取り組み 59
高橋 弘幸（労協センター事業団九州沖縄事業本部事務局長/会員）
- 「ワーカーズコープ論」沖縄4大学共同記者会見 報告 72
相良 孝雄（協同総合研究所 事務局長）
- 大学生がワーカーズコープを学ぶ理由 81
下村 幸仁（山梨県立大学人間福祉学部教授/協同総研理事）

海外レポート

- 資料から読むイタリアの社会的経済（17）
コミュニティ協同組合の今日① 85
田中 夏子（協同組合研究者/農/協同総研理事）

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（15回目）

- これまでの出来事と若手リーダーとして 101
鹿子島 孝次（労協センター事業団 春日事業所 所長代行）

- 労協連だより 高成田 健 104
研究所だより 相良 孝雄 105



巻頭言

寄附講座「ワーカーズコープ論」 から学生ワーカーズの設立運動へ

藤田 徹(センター事業団副理事長/センター事業団人材戦略部長)

ー 3年目を迎えた寄附講座ー

沖縄大学での大学寄附講座「ワーカーズコープ論」がスタートし3年目の夏を終えた。嬉しいことにその後、沖縄国際大学や福岡県の久留米大学^{*1}でも開講が実現し、今年は3大学での開講となった。担当教員として実務を担っていただいた、沖縄大学の鳥袋隆志先生、沖縄国際大学の村上了太先生、久留米大学の伊佐淳先生はじめ、各大学の学長及び関係者の方々にこの場をお借りして改めて御礼申し上げたい。

この寄附講座は、来年、琉球大学、沖縄キリスト教学院大学、福島大学でも開講が決定(計6校での開催)し、寄附講座が運動的な広がりを見せ始めている。特に福島大学では、この講座を協同労働を活かした市民主体の福島の復興につなげようと位置付けがされ、全学年、全学部対象の総合科目として、学生はもちろん、行政職員や協同組合関係者にも幅広く呼びかける内容で検討が始まっている。また学長との調印式はじめ、自治体の首長たちにも呼びかけて「協同労働で仕事おこし、福島

の再生を」フォーラムの開催など、多様なまちづくりに向かう取り組みが計画されており、寄附講座を入口とした大学との新たな連携モデルが生み出されようとしている。

ー 学生と向き合ってー

今年の講座は、主催者側が一方的に講義をする方式ではなく、現場実習や学生とのディスカッションを重視した。またワーカーズコープの実践だけではなく、実際に学生が協同で起業した「がちゆん」の事例や他の協同組合でのまちづくりの事例なども紹介し、バラエティと可能性に富んだ協同労働による仕事おこし、まちづくりのイメージを広げてもらった。

そのなかで改めて感じたことは、ブラック企業問題など働くことについて積極的・肯定的なイメージを持ってない学生の多さと、ワーカーズコープの理論や実践について、ひとみを輝かせて聞き入る学生のまっすぐな姿だった。自分の地域や暮らしを豊かにしていくことと働くこととのつながりが見えず、

^{*1} 久留米大学では「協同組合概論」のなかでワーカーズコープの講義を展開した。

働くことが=稼ぐことや社会との関係を見いだせず「狭い労働観」から抜け出せないジレンマを多くの学生が抱えていることを感じた。

ワーカーズコープでは、来春卒業予定の学生向け説明会も行っているが、今年の動機で特徴的なものは、①株式会社とは違う原理を持っている会社で働きたい ②働くことをまちづくりに生かしたい という学生の多さである。

今年の寄附講座を受講し、ワーカーズコープへの就職を希望する学生からの連絡も入っている。協同労働が不安な学生の心に入ってゆく実感と確信をもった2017年寄附講座でもあった。

ー学生ワーカーズ設立運動の可能性ー

私が今年の寄附講座運動で必ず呼びかけたことは、大半の学生がアルバイトをしている現状を前提に、学生時代から地元や大学の存在する地域でワーカーズコープを立ち上げ、仕事おこし、まちづくりを学び、協同で収入を得ることをしないかということだった。

例えば、大学近くの商店街と連携して空き店舗を貸り、商店街の活性化と合わせ、子どもの学習支援や産直所、フィットネスセンター、カフェ他の仕事おこしをしないかという呼びかけ

や、大学から食堂や清掃を委託してもらい、それを学生自身がワーカーズコープを立ち上げ運営することなどを提案した。その際に大学の先生と地元にあるワーカーズコープが、立ち上げの支援や、ワーカーズコープの現場づくりの支援ができるという。

また最初から、市民と学生で混合型のワーカーズコープを立ち上げることも考えられる。実際、ワーカーズコープちばでは行政から委託を受け、困窮家庭に対しての学習支援を近くの大学の学生がワーカーズの組合員となり担うという実践が生まれている。これらの呼びかけに対する学生の反応は上々で、「学校で説明会を開いてほしい」「チラシの配布やポスター貼り位ならできる」「そういう企画があればぜひ参加してみたい」など前向きな意見が多く寄せられた。地域に貢献する大学づくりが多く大学の標榜されるなか、学生が地域とつながり、学問を活かし、仕事おこし、まちづくりを通して、「共に暮らし」「共に働く」共生・協同の生き方を学ぶことは、学生にとってはもちろん、閉塞感が蔓延する日本社会にとっても、大きな希望につながる道となるのではないだろうか。

ぜひ、読者でもある多くの大学関係者にご一考いただければ幸いである。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。